



みなさんと議会をつなぐ



議会だより

平成29年12月
発行：比布町議会
編集：議会広報特別委員会



PIPPU TOWN ASSEMBLY

ちょっぴり緊張するけど…

中央小学校学芸会 10月22日

- 審議結果「9月定例会」ほか…………… 2～3
- ここが聞きたい！一般質問…………… 4～7
- 平成28年度決算審議…………… 8～11
- 常任委員会合同行政視察調査… 12～13
- 委員会の活動報告…………… 14～17
- 議会のうごき…………… 18

次のとおり決まりました 9月定例会

第3回町議会定例会は、平成29年9月12日から14日までの3日間で開催されました。審議内容は、平成28年度比布町歳入歳出決算認定をはじめ、教育委員会委員の任命など議案11件の提出があり、原案のとおり可決されました。一般質問には、4人の議員から町の課題についての質問が出され、町長の考え方や方針を問いました。その概要をお知らせします。

報告

◆地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく報告

平成28年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率を議会に報告し、財政の健全性を維持するものです。

実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4つの指標がありますが、本町の財政はいずれも基準値内の数値であり「健全である」との報告がありました。

認定

◆平成28年度比布町歳入歳出決算認定

中本論委員長他5人で構成する決算特別委員会に付託した決算審議の結果、認定されました。

規約変更

◆北海道市町村職員退職手当組 合規約の変更

北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更

◆北海道市町村総合事務組 規約の変更

「西胆振消防組合」及び「江差町ほか2町学校給食組合」の事務追加、構成町及び名称変更に伴い、規約の一部を改正するもので、原案のとおり可決されました。

人事

◆教育委員会委員の任命

任期満了に伴い、岡田功氏（再任）、佐藤五香氏（新任）を任命することで同意しました。

◆監査委員の選任

任期満了に伴い、笈川弘司氏（再任）を選任することで同意しました。

◆固定資産評価審査委員会委員 の選任

任期満了に伴い、大野秀吉氏（新任）を選任することで同意しました。

補正予算

◆平成29年度比布町一般会計補 正予算（第3号）

地方公会計管理事業302万4千円、米穀等生産振興事業1533万円、観光振興事業2559万9千円、新団地建設事業600万円が主な増額で、総額5615万5千円が原案のとおり可決されました。

◆平成29年度比布町国民健康保険特別会計補正予算（事業勘定）（第2号）

退職者療養給付費の精算に伴う返還金99万1千円を予備費から組替補正するもので、原案のとおり可決されました。

◆平成29年度比布町介護保険特別会計補正予算（第2号）

地域支援事業交付金の精算に伴い、償還金利子及び割引料52万9千円を介保険事業準備基金積立金に同額を組替補正するもので、原案のとおり可決されました。

◆平成29年度比布町観光事業特別会計補正予算（第1号）

びっぶスキー場センターハウス「スキップ」建設に伴う建設費用の借入金返済分2559万9千円の一般会計繰入金が増額で、原案のとおり可決されました。



昨シーズンオープンしたセンターハウス「スキップ」

第4回臨時会

10月 25日

◆議席の指定、各委員会委員・
組合議員等の選任

平成29年9月19日付けで今井明信議員が辞職したことにより比布町議会議員は、定数9人に対し2人が欠員となっていました。10月22日の第48回衆議院議員総選挙と同日に行われた比布町議会議員補欠選挙において2人が当選されました。



今井 明 信
9月19日付辞職

意見書を提出

第3回定例会において、次のとおり意見書を採択し、それぞれ関係機関に提出しました。

- ◆軽油引取税の課税免除特例措置の継続を求める意見書
- ◆林業木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

〔提出先〕
衆参両院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、文部科学大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、国土交通大臣、環境大臣、復興大臣

これに伴い、議席の指定、各委員会委員、組合議会議員等を選出しました。
なお、任期は平成31年4月30日までとなります。

よろしく
お願いします



大熊 勝 幸
当選1回(議席3)
総務常任副委員長



安藤 裕 子
当選1回(議席4)
産業建設常任委員

◇総務常任委員会

※太字が新委員

- 委員 長 佐藤 康 則
- 副委員 長 大熊 勝 幸
- 委員 遠藤 ハル子
- 委員 植西 浩一
- 委員 八巻 良博

◇産業建設常任委員会

- 委員 長 八巻 良博
- 副委員 長 山内 一彦
- 委員 中本 一彦
- 委員 佐藤 康 則
- 委員 安藤 裕 子

◇議会運営委員会

- 委員 長 山内 一彦
- 副委員 長 中本 一彦
- 委員 佐藤 康 則
- 委員 八巻 良博

◇大雪浄化組合議会議員

- 議 員 澁谷 興二
- 議 員 中本 一彦
- 議 員 山内 一彦

◇議会広報特別委員会

- 委員 長 遠藤 ハル子
- 副委員 長 植西 浩一
- 委員 八巻 良博
- 委員 佐藤 康 則
- 委員 安藤 裕 子

◆専決した事件の承認

10月22日執行の衆議院議員総選挙等における必要経費350

万円予算を増額計上(補正予算第4号)。10月2日付け、専決処分について承認されました。

◆平成29年度比布町一般会計補正予算(第5号)

ぴっぷスキー場スキーレンタール事業者撤退に伴う事業継続費用として、旧ほくろいロッジ管理事業100万円を増額し、原案のとおり可決されました。

●●●●●各会計補正額と補正後の総額●●●●●

会計区分	補正額	補正後の総額
一般 会計(第3号)	56,155千円	4,741,662千円
(第4号)	3,500千円	4,745,162千円
(第5号)	1,000千円	4,746,162千円
特別会計 国民健康保険(第2号)	0千円	668,289千円
介護保険(第2号)	0千円	598,313千円
観光事業(第1号)	36,599千円	147,599千円

※国民健康保険特別会計及び介護保険特別会計は、会計内における組替補正



Q 買い物弱者対策と商店街の活性化について

A 商工会と連携し、さまざまな角度から方策を検討する

遠藤議員 町内の個人商店の

減少により、現在は「食品スーパー」と「コンビニ2店」でしか購入できる店がなくなりまして。過疎地の「買い物弱者」が少子高齢化により、以前よりますます困難が見えてきています。

日本経済新聞では、「過疎地の『難民』を救えるか、小売店の『公設民営』 出店相次ぐ、買い物弱者対策、地域衰退に危機感」などと報道されています。

この間、町民からはスーパーの営業継続についての不安の声が聞かれ、もはや大手スーパーの問題だけではなくりつつあるのではないかと思います。

生活インフラとして、町が公設・民営している他の必要な事業と同等の必要性和現状把握、どうなったら不便さを減らし、どうしていかなければならないのかなどの対策について、町長

に伺います。

伊藤町長

本町においても、高齢者の移動手段や買い物弱者対策、起業化への誘導策など、市街地活性化に向けた、さらなる対策の必要性は感じておりますが、抜本的な対策推進にはハードルが高い面もあるものと思っております。

本町の市街地商店街を取り巻く近年の状況において、ご指摘のとおり食料品店・飲食店などの閉店が相次いでいることは、非常に残念であるとともに、町民の不安はもとより、深刻な問題と受け止めています。

要因として経営者の高齢化、雇用の確保の困難性、郊外大型店への顧客流出に歯止めがかからず、来店者の減少など購買力の低下、また、通販や宅配サービスの普及などの影響も考えられますが、いずれにしても将来を見据え、経営者が苦渋のうえに選択されたものと思っております。

す。

しかし、閉店によりマイカーなどで買い物に出られない高齢者層が行き場を失う状況が拡大することも懸念されることから、昨年度、町では商工会と連携のもと、商店継承の方策を検討するため、空き店舗貸与の意向調査を実施しました。

結果、現在の空き店舗所有者の中で希望者はなく、店舗に対する所有者の思いもあり、難しさを実感したところです。

現段階では、具体的な方策は見いだせていない状況です。本町のまちづくりを進めるうえで克服しなければならぬ課題でもあり、商店街活性化に結びつく重要な対策でもありますので、商工会とも十分に連携し、さまざまな角度から方策を検討していきたいと思えます。

遠藤議員

今後、商工会とも十分連携するとは言っていますが、町内商店は、減少傾向にあると

思います。食品スーパー・コンビニ店舗はお客を呼び込んで利用を増やしていますが、すごく不便になっています。

例えば、今までは配達がありサービスが良かったのですが、町内団体や町内会、サークルが飲食を利用するときには、午後3時以降でないとできない、先に買って置いて預かれないなどがあります。

配達のサービスについても、不足しているゆえに町内の利用者、町民が愛着を持っていないのではないかと思います。

先日、食品スーパーの関係者や隣の空き地所有者に話を聞いて来ましたが、町と事業者とよく話し合おうとまよってほしいという希望がありました。商工会にお願いするということもありそうです。もう少し町に引き寄せ、やはり町が何らかの形で関わっていくべきだと思います。

伊藤町長

やれることについては、これからも進めていかなければ、本場に比布町は大変な状況になっていきます。そのとおりだと思えますので受け止めさせていただきます。



Q

町長退任決断！

伊藤町政3期12年を顧みて

A 町民の理解と職員への協力に感謝!!
地域の課題解決に全力を尽した

①伊藤町政3期12年を顧みて
佐藤議員 退任に至るまでの経緯をあらためて伺います。

伊藤町長 現在の比布町は、地方型の課題に直面しているが町内の若者たちは、積極的に学び挑戦してくれています。

また、農業施設や受託組織の強化、スキー場施設の更新、中学校の改築、駅前広場の活動も大きな役割を果たしています。

他にも確実に明るい未来に向けて歩みを進めている状況を見たとき、十分ではないが、全霊を尽くした思いがあり、不出馬を決断しました。

佐藤議員 就任当初は、地方分権改革が強まる中、道営事業や浄水場の更新、小学校の改築等、財政投資が困難な状況下で急務を要する事業を控え、どのような気構えと配慮をもとに運営されたのか伺います。

伊藤町長 何があるうと行政の流れを止めることなく、自らの努力を精一杯し、他のことは

一切考える余裕さえない状況でした。こういった状況を乗り切れたのは、町民の理解と職員の協力のおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。

②町道を含む町有施設、夏季の維持管理について

佐藤議員 現在、町有施設の除草維持管理は所管する各課と町内会や近隣住民で管理されている小公園や植樹もあり、永遠に管理を継続するには、近い将来限界が生じます。

また、町民や行政職のOBなどからも管理の頻度が低いとの苦情があります。

各施設横断的に状況を把握し、一元管理を備える必要があると思いますが所見を伺います。

伊藤町長 基準を明確にしながらいま各課で管理を行い、対応が異なっていたので、横の連携強化を図り、年度当初に計画を検討し、施設管理を行います。

佐藤議員 理事者や管理職の

方も日ごろから状況を見かけていると推察するが、連携や指示に至っていないのでは。基本となる環境を整備してこそ、移住定住等の新政策が生きてくるものと考えているが、意識と心の部分も含め、若手職員に継承し、必要な予算は確保してほしい。

伊藤町長 見て確認する認識を改め、地域の理解と協力をいただきながら環境整備を進めていきます。

③道道の除排雪の連携について

佐藤議員 平成26年度決算委員会でも町除雪機械の適正配置を提案し、蘭留の一部を民間委託、市街地の一部をドーザーへ切り替え、適正な機械機能が発揮され評価されています。

道道比布停車場線は町民の生活道路であるが、幅員が狭く、除雪作業は雪を踏み固め、轍や不陸を削り、一定量路端に堆積し、排雪する工法を取っていますが、堆積中は車両交差や安全

歩行も困難で、圧雪路面が融解し、車両がハマるほどの事態が発生しています。

北海道管理部との連携はどのように取っているのか伺います。

伊藤町長 旭川建設管理部に対しては、除雪体制の強化、作業回数の増について、毎年強く要望しています。

佐藤議員 管理部の担当職員は、着任後2年になるが、町から除排雪の苦情、出動要請は一度もない。また、前任の引き継ぎ事項にも記録はないということだが、出動要請を現実に行っていますか。

伊藤町長 現在も機会あるごとに要請しています。担当職員からそう言われるということは私としては全く理解できないので、確認します。

佐藤議員 担当職員は、地域住民に危険な状況を確認した際には速やかに要請してほしいとのことでした。北海道の管理下であっても、町民の安全通行を目的に危険な状態を回避するべく、適切な連携を保持していた

伊藤町長 これまでもそうですが、今後も必要な要請活動については強化していきます。



Q 本町のさまざまな課題に対して今後の町政運営をどう進めるのか

A 町民みんなで知恵を絞り心豊かに住み続けられる地域に

今井議員 現在の本町の主な

課題は、①医療・福祉の一体的取り組みと高齢者割合40%台の高齢者支援、②農業は、平成30年以降の生産の目安と生産面積を維持する政策、担い手問題、③昨年完成したセンターハウスを中心とした町営スキー場、町観光の拠点である遊湯びっふを含む良佳村エリアの整備、④新たな町の魅力発信や雇用の場、人口減少対策と地方創生等の諸課題がありますが、今後どのよう

に町政運営を進めてくのか考えをお聞かせください。また、次期改選に指名をした方に何を踏襲してもらいたいのですか。

伊藤町長 不出馬を表明していますので、それを踏まえて私の思いをお答えします。

①は、少子高齢化が進展し、人口の減少に歯止めをかけられない現状ですが、ここ数か月の人口が増えており、定住対策の

効果が表れてきたと感じていますし、環境整備は工夫をすれば

良い方向に向かうと思います。都会のような利便さはなくても、心豊かに住み続けることのできる地域とすることが大切で

高齢化が進む地域では、医療・福祉の充実が重要なものと思っています。②は、農協がライスファクトリーを改築し、受託組織が施設・機械の整備を進めてくれると思います。さらに、若い農業者も新たな挑戦を始めているので、比布町の農業にも明るい未来が見えています。

③・④は、現在、スキー場のリニューアルを進め、多くの方に楽しんでもらえるエリアとするよう、観光振興協議会や議員の皆さんからも知恵をいただきながら、良いものにするよう努力すること、より比布町の良いところを知ってもらうために効果的な情報の発信に努めること

も必要です。

「指名をした方に何を踏襲してもらいたいか」については、指名した方も私とともにまちづくりを進めてきた仲間なので、私が進めてきたまちづくりへの思いや方向性は踏襲してくれるものと思います。

しかし、その方法等は、新たな発想や議会との議論、町民の皆さんのご理解もいただきながら進めてほしいと思います。私のやり方をそのまま踏襲する必要はないですし、それでは変わった意味がない。若い発想と行動力で頑張ってもらいたいと思っています。

今井議員 人々が住むためには、医療と介護の質が大切であり、重度化しないための医療、予防とケアが必要だと思っています。

比布町が目指す医療と福祉、介護についての政策は、

伊藤町長 医療では、びっふ

クリニックにホームドクターという役割を担ってほしいと思っています。

町民の皆さんの健康と生命を守るということでは、医師と相互理解を図りながら、町民の皆さんにとって一番良い医療を提供したいと思っています。

機器の問題も含め、町ができる支援には限界があるので、医師・町・町民の皆さんの思いをつき合わせ、目指していくのが本町の医療の在り方だと考えます。

福祉についても同じ考えですが、時代の流れとともに、求められる福祉がどんどん変わってきています。

在宅福祉や施設介護など、それぞれ議論した中で知恵を絞り、工夫をしていくことが必要ですが、万全な方策は、なかなか見つからない状況です。



植西議員 行政の究極の目標

は住民を幸福にすることにある
と思います。

町長の考えをお聞かせくださ
い。

伊藤町長 幸福を追求するた

めに必要なバックアップをする
努力をしなければならぬと思
います。

しかし、本当の幸福感を得る
には本人が幸福感を追求してい
くことが大切だと思います。

私は、安心して心豊かに暮ら
すことのできるまちづくりを基
本としてきました。

また、住民の方々が比布町に
住んでいて良かった、住み続け
たいと思ってもらえるような施
策を進めてきました。

私が進めてきたまちづくりで
幸福感の追求に役立ったかは、
私が評価できるものではなく、
町民の皆さんが評価するものだ
と思っております。

植西議員 公的なサービスで

Q

住民を幸福にするために

もっと広聴方法を工夫できないか

A 各地域の関係者や議員の皆さんも
しっかりと広聴方法を工夫できないか
しっかりと住民の思いを吸い上げてきてほしい

完全な幸福感を実現することは
不可能だと私も考えます。

さらに言えば、行政ができる
範囲はさまざまな条件に縛られ
てきます。

それは、平等性であったり、
均等に実施されることであつた
り、財政であつたり。これらに
知恵を絞って、行政サービスとい
うくくりの中で、不幸な状態に
ある人を不幸でない状況にする
ために実施していくものと思
います。

そして、幸福追求権が損なわ
れないようにマイナスの状態に
ある住民をいち早く見つけ出し、
幸福へ導くことができれば、安
心して心豊かに暮らすことので
きる町に近づくものと思います
がどのように考えますか。

伊藤町長 知恵を出し、工夫
をして、より多くの人が不便さ
などを解消されて幸福を追求す
るための材料となるように、良
い土台を築いていくことは必要

だと思っております。

植西議員 広聴する機会の拡

充と※フアシリテーションのよ
うな広聴の方法を工夫すること
が大事ではありませんか。

伊藤町長 広聴活動について

は、これは非常に重要なことだ
というように思いを私も持って
います。

また、今までもいろいろな形
で広聴をしています。

植西議員 広聴する時に、公

の場で発表できない方でも、文
章を書けない方でも、何に困っ
ているのかをしっかりと把握する
仕組みをつくっていかなくては
いけないと思います。

どうしたら住民の意見をより
広く、よりたくさん、よりいろ
いろな種類のことを吸い上げる
ことができるのかという工夫が
足りないと思えますが、どのよ
うに感じていきますか。

伊藤町長 各地域には、民生
委員や区長もいます。福祉関係

の方々もいらつしやるので、そ
れぞれ地域の思いを吸い上げて
まちづくりに生かしていくこと
が必要だと思っております。

また、議員の皆さんも住民の
思いをしっかりと吸い上げてき
てほしいと思います。

フアシリテーションとは…

会議や話し合い等の場で、
発言や参加を促したり、話
の流れを整理したり、参加
者の合意形成や相互理解を
サポートすることにより、成
果が上がるように支援するこ
とをいう。



平成28年度 各会計決算を認定しました



平成28年度各会計決算は、議長及び議選監査八巻良博議員を除く議員5人で構成する決算特別委員会（委員長中本諭・副議長）を設置し、9月12日から13日の2日間にわたり、審議を行いました。

定例会最終日の9月14日に、中本委員長から「委員会として平成28年度会計決算を認定すべきもの」との審査結果報告がありました。

区分	予算現額	支出済額	差引
一般会計	5,146,099,000円	4,021,496,161円 (繰越明許費等972,449,000円)	152,153,839円
国民健康保険特別会計	671,814,000円	646,251,577円	25,562,423円
後期高齢者医療特別会計	61,054,000円	60,540,760円	513,240円
介護保険特別会計	586,790,000円	578,288,812円	8,501,188円
観光事業特別会計	733,055,000円	716,653,053円	16,401,947円
簡易水道事業特別会計	229,295,000円	225,191,012円	4,103,988円
公共下水道事業特別会計	106,705,000円	104,067,675円	2,637,325円
合計	7,534,812,000円	6,352,489,050円 (繰越明許費等972,449,000円)	209,873,950円

一般会計【歳入】

使用料関係

植西委員 公衆浴場使用料が昨年より減少しているが増収策は何かやっているのか。使用料を増額して維持管理費に充てるべきでは。

保健福祉課長 特にしていない。自宅にお風呂のない方は少ないと思うが、住民サービスの一環として低額に設定している。

山内委員 町民プール使用料が少ない。他町では廃止しているところもある。今後存廃を検討しては。使用料アップなど考えられないか。

生涯学習課長 年間約360万円の経費がかかっているが、学校授業を中心に、夏季休暇中は子どもたちが利用している。今後とも修繕しながら利用促進の方法を考え、使用を継続したい。

遠藤委員 公営住宅使用料の減少、未収額も減少している。理由には、徴収努力や減免申請が多かったのか。納期を毎月20日頃に変更することはできないか。

建設課長 減免は30件、収入に応じて家賃を決定している。現年度分は100%徴収。納期

は月末締め切りで、変更は検討していない。

植西委員 公営住宅使用料の中に屋根の雪下ろし等の経費は含まれているのか。雪下ろし困難者から多少の負担金をもらってやってみるかどうか。

建設課長 含まれていない。雪下ろしは原則入居者で実施。南団地2階建て3棟は危険なので町費で行っている。

諸収入関係

植西委員 ブンブンハウス6万円増の要因は何か。比布駅の宣伝効果もあり、29年度も増えていると思うが、施設を修繕しながら、さらに駅をうまく利用していけば来町者も増えると思うが。

総務企画課長 27年度からみれば増えているが、例年から見ると減っている。新駅舎の効果とPR効果もあった。最低限の修繕は行いたい。

一般会計【歳出】

総務費関係

佐藤委員 移住定住対策で、民間集合住宅建設補助を昨年7月に予算を補正して、実際に効果は何戸あったのか。まちなみ

整備計画として市街地の総合的な計画が必要と思うが。

まろくり室長 12世帯が町外から移住してきた。土地の有効活用の一環だが、総合的な計画は現在ない。

今井委員 民間支援は良いが町が業者選定するにあたり、公平性は保たれていたのか。平成26年度まで宅地会計もあり、需要があれば特別会計や検討委員会を設置すべきと考えるが。

総務企画課長 今年度の状況をみながら検討したい。現時点で特別会計を設置する考えはない。
植西委員 空き家調査委託料が700万円は高いと思うが、活用できる空き家の評価も含めた調査だったのか。

まろくり室長 空き家調査370万円と移住希望調査330万円の2件の調査費用。

山内委員 交通安全対策費で不用額が多い理由は。

総務企画課長 旅費や工事費だが、一部交通安全協会から支出している。

佐藤委員 駅舎と外構を別発注にしたのはなぜか。建物と外構との整合性がないように思えるが、設計コストを考えれば外構の設計も合わせて考慮すべき

だったのでは。今後、十分留意してほしい。

また、駐輪場、ブンブンハウスも含めた駅前エリアの総合的な整備等を考えてほしい。

植村副町長 一括発注の考えがなかった。今後の建物については、周辺も含めた部分を十分検討したい。

遠藤委員 足の不自由な方のためにも冬場も含めて、駅前に車が進入できるようにならないか。

まろくり室長 駅前広場は、交流スペースとして、また車進入で事故の心配もあるため、車の乗り入れをさせないという前提で整備をした。少し様子を見ている段階である。



新しい比布駅舎と交流スペースの駅前広場

植西委員 平成26年8月の大雨で土のう袋が不足した経緯があるが、現在の保管状況は。
建設課長 砂は、北3線4号の資材置き場にあり、袋は2千枚、うち400枚は砂を入れて保管している。

民生費関係

今井委員 老人クラブの活性化が必要と思うが、町として老人クラブ組織の必要性を考えるべきでは。最近白寿大学を重視している感じがする。老人クラブ当事者の話を聞いてほしいとの声もある。

保健福祉課長 嶺幸クラブは平成28年末に、東園寿老人クラブは3月末で休止している。活動は衰退している。原点に戻って老人クラブはどうあるべきかを考えたい。

教育委員会と横の連携が必要という認識は持っている。役員の負担軽減も考えながら協議をしている。

植西委員 「ぴびたく」利用の多様性について、みんなが集う場や介護予防事業への送迎、また、サロンや「ふまねっと」参加者など、多様性を持った運行について検討されているか。農

家地区の方は遠慮して不参加の人もいる。
保健福祉課長 一定の条件のもと事業や各教室にも利用いただいている。

衛生費関係

遠藤委員 総合健診の受診率向上への取り組みと未受診の理由、受けたくない理由を把握しているのか。

健診当日は水分を取れないので具合が悪くなり、受診したくないという話も聞いたが。

保健福祉課長 受診率57%が目標。聞き取りすると「治療を受けているから受診しない」等の理由。引き続き、個別訪問等を行い、受診勧奨している。

胃のバリウム検査は、水分を取ると検査ができない場合もあるので、検査終了後に水分を取るほかない。

農林業費関係

植西委員 特産品自体が不足している感じがする。町が経費を負担して専門家を呼んで講習会等を開催してはどうか。

産業振興課長 特産品開発への一部支援はしており、意欲のある人には支援したい。講習会や実

行委員会形式なら支援したい。
今井委員 経営所得安定対策事業の町単独補助金も含めた農産物に対する補助金は、農協と営農の部分も含めた在り方を考慮したい。補助金を受けて作ったホールクロップの半分は売り物にならないようだ。

今後の農業対策室の在り方も検討が必要では。
産業振興課長 平成30年以降は農協が主体となる。比布町の農業の在り方について、協議の1年となる。

伊藤町長 農業対策室はこれまでも議論してきているが、農協組合長とも協議している。近隣の在り方も調査した。解消も視野に入れ、年度末までに結論を出したい。

土木費関係

佐藤委員 雨水升やグレーチングの破損状況の確認、汚泥の処理を計画的に路線ごとで施工できないか。

建設課長 床^{とさくら}洩いは、定期的には行っていない。大雨等に備える必要もあるので確認は必要と考えている。

今井委員 みどり町団地は、2階建てだが、これから住む人

のニーズから平屋が望ましいと思うが。

建設課長 これから東団地建替住宅の基本設計を実施するが、高齢者が多いので配慮したい。

植西委員 除雪作業が遅れて子どもたちの通学時間帯に作業をする場合、教育委員会と連携が取れているのか。職員が各部署で現状を把握しているのか。遅れた場合、連絡は取れているのか。

建設課長 原則、通学通勤時間帯前に作業を終了させているが、やむを得ない場合は、職員を通じて連絡している。

消防費関係

山内委員 当初予算の範囲で十分な消防体制はとれていたのか。
消防署長 予算的に不足はない。車両更新等には協議しながら計上している。

教育費関係

山内委員 学校給食での町内の食材の調達状況はどうか。
生涯学習課長 平成28年度は、町

内業者は30%、地元食材では、米は農協、キノコ・卵・野菜少々、量的には限りなく少ない。29年

度は、町内業者が閉店したので旭川の業者より納入。町内野菜は農協より納入している。

遠藤委員 中央小学校のフッ化物洗口の効果で虫歯が減少した実績は、歯科医師にも状況を確認してはどうか。

生涯学習課長 虫歯の減少等については把握が難しい。全国的調査では効果があると言われている。歯科医師にも今後確認する。

介護保険会計【歳入・歳出】

遠藤委員 生活支援体制整備事業で不用額が100万円となっているが、やり残した事業があったのではないか。

保健福祉課長 28年に新総合事業に手を挙げ、社会福祉協議会との連携体制を確立し、生活支援コーディネーターの件費を計上したが、有資格者の採用ができなかったため、不用額となった。29年度は社会福祉協議会で職員を採用している。

今井委員 新総合事業で要支援1、2が対象から外れる可能性があり、本町でもそのようなケースはあるのか。

保健福祉課長 対象から外れる可能性があるが、本町では事例は

ない。その人に合わせたサービスを提供している。

観光会計【歳入・歳出】

今井委員 ぴっぷスキー場センターハウスの休憩室は、食べ物を持ち込む客と混在しているが、利用者に不便をかけている部分はないか。

良佳村全体として会計の統合を考えたらいいのでは。

産業振興課長 さまざまな利用客がいるが線引きは難しい。雪番屋、ほぐれいロッジの抜本的見直しが必要。レンタル業者の撤退があり、早急に対応したいと思う。利用者には不便のないように対応していく。会計の問題は、財政担当者とも協議したい。



総括質疑

遠藤委員 一般会計で不用額が1億5200万円、特別会計を含めて約2億円だが、町長の予算執行と不用額についての考え方は、「お金がない」「予算がない」ではなく、町民が納得できる説明と安心感を与える言葉が必要ではないか。

伊藤町長 適切に予算を組んだが、大型事業もあり執行残や入札残があり不用額が出た。町

民の皆さんのために組んだ予算なので効率的に使っていきたい。

佐藤委員 さまざまな課題解決に向け、理事者、管理職及び議員が皆一丸となって解決に向けて鋭意努力していかなければいけない。

役場庁舎の改築に向けてどう取り組むのか。

伊藤町長 中学校校舎改築後に、他施設の改修も含めて考えなければならない状況である。

視察来町



10月13日（金）、オホーツク管内の置戸町議会総務常任委員会（小林満委員長）委員ら11人が、比布町役場を訪れました。

■視察内容■ 空き家対策、定住促進、子育て支援

▲置戸町議会総務常任委員会

▼鹿追町議会総務文教常任委員会

10月25日（水）、十勝管内の鹿追町議会総務文教常任委員会（加納茂委員長）委員ら9人が、比布町役場を訪れました。



■視察内容■ 移住定住支援策、自治体広報の新しい取り組み

総務常任委員会
産業建設常任委員会

合同行政 視察調査

平成 29 年 10 月 10 ～ 13 日
滋賀県湖南市・香川県三豊市



正藍染づくりを見学



下田地区の説明を受けて

比布町先世の 歴史と文化を訪ねて

滋賀県湖南市

・研修会場：湖南市下田
まちづくりセンター
(湖南市役所下田出張所)
・開催日：平成 29 年 10 月 11 日
・説明者：下田まちづくり協議会
会長 峰 克司 様
会計 谷 保彦 様

旧下田村で生まれ育った、谷定徳さん（当時 29 才）が自ら团长となり、その若さながら 20 戸の仲間を引き連れ、比布原野へ初入植に入った当時（明治 28 年）からの経緯をパワーポイントでご説明いただき、改めて過去の歴史と湖南市と比布町のご縁を確認しました。

さらに下田の伝統工芸、伝統野菜、歴史建造物の見学のご案内をいただきました。

まず訪問したのは、「正藍染」を家業とする植西恒夫さん（81 才）の自宅兼工房です。

「正藍染」は江戸時代中期に京都から伝わったとされ、植西さんは「紺喜染織」の六代目。この道 60 年の達人で、その作品は滋賀の伝統工芸品に選定され、昭和 52 年に「日本民芸公募

展」の「内閣総理大臣賞」を受賞され、藍の栽培から発酵、染色、織りまでの技法は昔のままに、反物をはじめ、のれん、座布団カバー、巾着袋などの布が染められています。

植西さんは「伝統を守るため、この仕事を続けているわけではなく、続けてきた仕事の結果として伝統と呼ばれるようになっただけ」「現在は伝承という形ではないですが、体験を通じて多くの方に藍染を知り触れていただく場を設けています」と話されています。

また、ご自分で染め上げた大変深みのある「正藍染」のジーンズとジャンパーを着こなす、粋な姿が印象的でした。

2 か所目は「近江つけもの株式会社山上本店」です。

古くより近畿の米倉といわれた近江では、主食の米とともに豊かな漬物文化が育ち、地域によって異なる風土の中、その地ごとに独特の葉菜・根菜が栽培されてきたそうです。



多彩で個性あふれる近江の野菜、その土地でしか採取できな

い種を代々受け継ぎ、四季折々愛情をそいで育て、その葉を摘み、漬物に仕立ててきました。

近江伝統野菜の代表とも言える「下田なす」は、この地で 100 年以上の歴史を持ち、従来は自家消費用として栽培されていたが、地元の美味しい野菜を世の中へ広めていきたいとの思いで、商品化されたそうです。

原料となる野菜は、自社農園で栽培し、シーズン中は土づくりから定植、収穫まで社員自ら行う徹底ぶりが確かな品質を支えています。

3 か所目は「日枝神社」です。この神社は、14 世紀の終わり頃、下田が開発されたときに、同滋賀県大津市の日吉大社の分霊を勧請して創建されたそうです。毎年 5 月 1 日に大祭奉納行事として田植え踊りが開催され、

下田小学校の児童らが数え歌や太鼓に合わせ、黄色・緑・赤の色鮮やかな田植え衣装をまとい、五穀豊穡と奉納の踊りを優雅に舞う風情が、初夏の訪れを告げる地元の大切な行事として受け継がれているそうです。

最後は慶圓寺というお寺を訪問しました。

このお寺の住職、諏訪超竜さんのお話では、定かではないが、元来は浄眼寺という曹洞宗のお寺で、慶長5年（1600年頃）に改宗され、その浄土真宗本願寺派、現在の慶圓寺になったそうです。

また、比布町中町の弘誓寺先代住職ともご縁があり、交流があったとのこと。

【委員会所見】

今回、下田まちづくり協議会の峰会長・谷会計・藤川市議のご配慮をいただきながら、北海道では拝見できない、この地区特有の産業と歴史にふれることができました。

湖南市の
防災対策に学ぶ

10月11日、総合政策部危機管理局危機管理防災課長伊藤雅則氏、同管理監塚本正美氏から湖南市の防災対策について、説明をいただきました。

湖南市も比布町と同様に災害の少ない土地柄で、いつ発生しても不思議ではない災害（地震・火災・集中豪雨）に備え「未然に防ぐ、最小限に抑える」ための防災知識をハザードマップにまとめ、各地域に防災士の配置

や育成支援を行い、発生時には各災害に適した行動がとれるよう、定期的に防災訓練を実施しているそうです。

また、市民の生命と財産を守る2棟の庁舎においては、東庁舎が昭和53年建設で築39年、西庁舎は昭和52年建設で築40年を経過し、2棟とも旧耐震基準であり「公共施設適正管理推進事業債（平成29年度創設）」により、現在、改築に向け基本計画が完成し、平成31年度前期までに実施設計の完了と同年度に着工、平成32年度末の完成を目標とされています。

比布町の庁舎については、昭和34年建設で、すでに築58年が経過しています。町民の生命・財産を守るべく構造にはなく、今後の対策が課題とされます。

タマネギ「北もみじ」
株式会社七宝を訪ねて

香川県三豊市

（佐藤 康則）

兵庫県の舞子から明石海峡大橋を渡り、淡路島を経由して四国の地に入る。その降り立った香川県の西側に株式会社七宝の拠点、三豊市があります。

10月12日、社員の皆さんの歓

待を受け、早速会社の概要、そして比布町にタマネギ種子の生産拠点を移すまでの経緯をお話いただきました。



昭和47年にタマネギの種子を採取するための会社を立ち上げ、その後、昭和49年には北海道で育種を開始しました。昭和56年にオホーツク1号「北もみじ」を発売し、北海道には春まきの種子、道外には秋まきの種子を供給しているそうです。

また、多くの品種改良に成功しているものの、改良には年単位の時間を要するため、非常に苦労を伴うとのことでした。

当初、東川町に種子生産圃場を確保しようとして進めていたが、もつと適した場所がないかと探していたところ、石狩川の恵みを受けた素晴らしい比布町を紹介され、拠点を移すことを決意されたそうです。平成2年のことでした。

平成5年に北海道支社（比布町）社屋が完成し、本格的な種子生産を開始しました。

生産当初から、さまざまな課題があり、また、それは日本最大のタマネギ生産地ならではの問題でもありました。

北海道の大規模生産地では機械化が進められ、そのため「欠株」を減少させることが最大の問題であったそうです。そのため、種子の発芽率を高めることが最大の社内目標になっていたようです。

現在では発芽率97・8%を達成し、これが会社の信頼となり、日本全体のタマネギ種子生産70%をまかなう原動力となっています。

現在、比布町でも生産圃場を拡大し、来年から整備をする予定とのこと。

社長の岩田氏が香川大学の取材に、「大きな信用は小さな信用の積み重ねである」と語っておられます。

小さなタマネギの種で大きな信用を獲得した株式会社七宝は、比布町の宝であると確信しました。

（植西 浩一）



北海道町村議会議長会主催 全道議会広報研修会 8月22日 札幌市

去る8月22日（火）に、札幌市（ホテルポールスター札幌）において、全道議会広報研修会が開催され、関係する議員と議会事務局職員など、約550人が道内から参加しました。

講師に、広報アナリスト吉村潔氏を迎え、さまざまな広報技術を学びました。

道内10町村の議会広報紙を題材にした広報クリニックと、何が広報紙の魅力を増すのかなど、多岐にわたって講義をいただきました。

「議事や議会活性化の見える化」「情報を住民目線で選択・整理して発信」「住民参加型広報の多様な広がり」等々を学び、あらためて広報活動の重要性を知ることができました。

現在の比布町議会広報特別委員5人の活動も、残すところ1年半となりましたが、町民の皆さまに伝わる議会広報紙を目指して努力してまいります。

八巻 良博



広報アナリスト
吉村 潔 氏

「どうなる？ 今後の日本政治」 「教育の今日的課題」

上川管内町村議会議員研修会
北海道市議会議長会道北支部議員研修会



上川教育局長 中島 康則 氏



政治評論家
有馬 晴海 氏

10月24日、鷹栖町メロディーホールにおいて、管内議員研修を今回初めて7市の市議会議長会との共催で開催されました。約350名の研修でした。

はじめに「どうなる？ 今後の日本政治」と題し、有馬晴海氏の講演です。

この度の衆議院選挙の裏話や各政党の動きを生々しく話され、固唾をのんで聞き入りました。

党首や大臣とも政治の駆け引きの真ただ中にいるからこそ話でした。

これからの政治は「100年安心プラン」で2017年に生まれた人は107歳まで生きるから高齢者は75歳以上に変わる事、経済の基礎は住宅建設と

自動車産業であること、介護保険制度の今後の国策を知恵で解決していくこと、2030年には空き家が1700万戸になるだろうなど、驚愕の話や衝撃的なこともありました。

次は、上川教育局長の中島康則氏です。

「教育の今日的課題」～地域とともにある、新しい学校のあり方～差し迫った教育分野での情報を共有したいと話され、「未来を担う子どもの成長は学校だけではできない。長期的な地域づくりは人づくりなので地方創生はコミュニティ・スクールで」と課題を提起されました。

遠藤 ハル子

総務常任委員会

8月31日開催

【税務住民課】

《報告事項》

■平成29年度町税等の調定及び収入状況について

・町民税

3385万4827円

収入率23・21%
(以下%は収入率)

・固定資産税

256万7634円

・軽自動車税

353万6306円

・たばこ税

819万7970円

・国民健康保険税

993万7907円

・介護保険料

3080万9400円

・後期高齢者保険料

885万1900円

・児童福祉費

12万5千円の増

・保健衛生費

12万5千円の増

・社会福祉費

102万7千円の増

・障害者福祉費

89・12%

・児童福祉費

89・12%

■上川広域滞納整理機構について(9町合計)

・全体引受件数 206件
1億2093万6248円

うち収納額

1404万5728円

・比布町引受状況

20件

うち収納額

829万4015円

・マイナンバーカード交付状況

72万6378円

・平成29年度交付枚数

7枚

・交付枚数累計

205枚

・固定資産評価審査委員会委員

の選任について

(7月末現在)

【保健福祉課】

《協議事項》

▼第3回定例会提案について

○平成29年度一般会計補正予算

(案)について

・児童福祉費

12万5千円の増

・保健衛生費

12万5千円の増

・社会福祉費

102万7千円の増

・障害者福祉費

89・12%

・児童福祉費

89・12%

■新国民健康保険制度概要について

■比布町認知症初期集中支援体制について

▽平成27年度介護保険制度改正に伴い「認知症初期集中支援チーム」と「認知症初期集中支援チーム検討委員会」を平成30年度までに設置することが義務付けられました。

○支援チーム体制

(平成29年8月1日設置)



認知症初期集中支援チームのメンバー

▽平成27年度介護保険制度改正に伴い「認知症初期集中支援チーム」と「認知症初期集中支援チーム検討委員会」を平成30年度までに設置することが義務付けられました。

○支援チーム体制

(平成29年8月1日設置)



認知症初期集中支援チームのメンバー

専門医…町立びっぷクリニック

院長 加藤 一哉 氏

専門職…地域包括支援センター

保健師 川島 亜希子

精神保健福祉士 野内 武

○初期集中支援チーム検討委員会

※当委員会は、支援チームが実

施する業務活動が公正かつ、適正運営を監視します。また、この検討委員会は、地域包括ケア推進協議会が兼ねることとなります。

■比布第7期介護保険事業計画等に係る国の方針(案)について

【生涯学習課】

《報告事項》

■平成28年度比布町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検・評価について

君の夢プロジェクト推進事業について

○中学校修学旅行支援

日程 4月25～28日(4日間)

3年生27人・引率教員5人

〈研修場所〉

▽1日目 東京都庁・国会議事堂見学ほか

▽2日目 首都圏キャリア研修(5班編成)、国内大手運送会社・東京証券取引所・東京卸売市場・日本銀行・新聞社視察、東京比布会の役員(5人)との交流会参加

▽3日目 首都圏自主研修(5班編成) 明治神宮・東京駅・浅草寺・長泉寺・鳥森神社・

六本木ヒルズ・江戸東京博物館・野球殿堂博物館・上野恩賜公園・東京スカイツリーほか

▽4日目 東京デイズニートリート研修ほか

○部活支援の部
吹奏楽部18人

(8月2日・比布中で開催)
東京クラリネットアンサンブル主宰・藤井一男氏による合奏指導

・剣道部5人
(8月3日・道警機動隊道場) 北海道警察機動隊剣道部の稽古に参加

事業費 1万8998円
・野球部11人(9月16日開催)
・ソフトテニス部27人(未定)
・卓球部14人(未定)

■中学生チャレンジゼミについて
■図書館蔵書点検について
■平成29年度比布町文化賞及び文化奨励賞について

今年度は、該当者なし
■比布町通学路交通安全プログラムについて
■比布中学校校舎等改築工事進捗について

《協議事項》

■平成29年度教育費関係補正予算(案)について
教育総務費・事務局費 14万6千円の増

中学校卓球部全道・全国大会参加助成、ソフトテニス部全道大会参加助成
小学校費・学校管理費 95万9千円の増

ワイファイ拡張工事
小学校費・教育振興費 62万円の増(教育扶助費)

【総務企画課】
《報告事項》
■第3回議会定例会各課提出議案について

■平成29年度普通交付税について
■平成29年度人事院勧告について
■その他

・平成30年度職員採用試験について
・民間集合賃貸住宅の建設推進について

・比布町ブライダル大作戦について



町職員が発案！ブライダル大作戦PR写真

《協議事項》

▼第3回定例会各課提出議案について
○地方公共団体の財政健全化に関する報告

○平成28年度比布町歳入歳出決算認定について
○北海道広域組合等規約の変更について

○一般会計補正予算(案)第3号について
総務管理費・一般管理費 55万3千円の増

情報化促進事業事務処理委託料
総務管理費・会計管理費 302万4千円の増

地方公会計管理事業事務処理委託料
総務管理費・企画費 330万円の増
移住定住対策事業

産業建設常任委員会

9月5日開催

【商工・観光部門】

《報告事項》

■平成29年度各観光施設の利用状況について(8月末現在)
▽遊湯ぴっぷ
入浴者数 8607人

(前年比98・9%)

宿泊者数 1289人
(前年比99・2%)

合計 9896人
(前年比98・9%)

▽グリーンパークぴっぷ利用状況
利用者数 1680人
(前年比81・57%)

※競技者の減少が止まらない。熊の出没情報があり、来場者にも影響か。
▽地域ふれあい館利用状況
利用者数 494人
(前年比84・20%)

■イベント等の実施状況
▽良佳村フェスティバル
6月25日(日)に遊湯ぴっぷ駐車場で開催予定でしたが、雨天のため中止となりました。

▽ぴっぷいちご狩り
期間 6月24日～7月14日
・農園数 9農園
・面積 2・63畝

・来場者数 9600人
▽ぴっぷ丸ごと水田!泥んこだらけのバレーボール大会
日時 7月16日(日)

・場所 北7線15号休耕田
・参加チーム数 42チーム
・来場者数 延べ600人
▽ぴっぷ七夕天国

町民の娯楽や親睦を目的に、毎年8月7日に開催。今年も多

くの町民参加、そして遠くは縁の深い滋賀県湖南市から職員2人と商工会役員4人の参加をいただき、交流や情報交換など、楽しい一日を過ごされました。

▽広域イベントについて

札幌市と旭川市で開催されたイベントに本町からも出店し、比布町のPRを行っています。
▽商工業関係支援事業について
今年は、2件の申請がありました。

▽びっふスキー場関連工事状況について

地域づくり交付金を利用して主にスキー場のリフト関係の整備に努めます。

《協議事項》

▼平成29年度びっふスキー場経営方針について

- ・ 昨年度完成したセンターハウス内に、新たに授乳スペースを新設予定

- ・ 広告、PRの実施について新たに旅行雑誌「るるぶ冬の北海道」へ広告掲載

- ・ 団体客の誘致について特に合宿団体客へのPR活動

- （リピーターを中心に）

- ・ イベント等の開催
- ・ センターハウスを活用したナ

イターのイベントを新たに開催以上、少子高齢化とともに、スキー客が年々減少していく中で、スキー客の増加に向けて協議しました。

【農林部門】

《報告事項》

■農産物の作付状況について

- ・ 水稲
作付件数 164戸

- ・ 面積 15万281・5[㍔]
- ・ 前年度との差△1014・5[㍔]

- ・ 前年度比 100・7%
- ・ 秋まき小麦（きたほなみ）
作付件数 25戸

- ・ 面積 6251・7[㍔]
- ・ 前年度との差△1010・5[㍔]
- ・ 前年度比 86・1%

- ・ 野菜
丸さやインゲン、大根等の生産が減り、ミニトマト、オクラ等の作付が増加

■経営所得安定対策について
〈加入申請状況〉

- ・ 米の直接支払交付金
加入者 163人

- ・ 未加入者 2人
- ・ 水田活用の直接支払交付金
水田保有者 275人

- ・ 転作作物作付農業者236人

※未加入者39人については、

不作付地、対象外作物のみ作付
・ 畑作物の直接支払交付金
対象作物作付者
65人（45件）が加入
（主員が営農継続支払申請）

比布集落営農組織については構成員23人中該当作物を作付した21人が加入

■熊の目撃情報について
今年は、1回目の目撃が4月24日。8月21日までで25回の情報が寄せられました。特に蘭留地区、スキー場周辺に多発しました。

《協議事項》

▼比布町一般会計補正予算について

- ・ 農林業費・道補助金（産地パ
ワーアップ事業）
- ・ 大豆の生産体制強化

作業受託組織（サポートKYO）販売額の10%以上増の実現へ向けて

【建設課】

《報告事項》

■町内建設工事の発注及び進捗状況について

■道路環境整備事業等の実施状況について

《協議事項》

▼比布町一般会計補正予算について

公営住宅等整備事業の減と新団地建設事業の増で、建築・土木委託料が増加

【農業委員会】

《報告事項》

■平成29年産水稲作況調査日程について（左表のとおり）

■平成29年産水稲作況調査日程■

日程	実施内容
8月 17日	町から農業委員会へ調査を依頼
23日	水稲収量調査合同会議
9月 8～10日	悉皆調査
14～15日	組合評価
19～20日	連合会評価

■農地法及び基盤強化法による農地用集積状況について

農地法第3条 5件

農地利用集積計画 17件
農地法5条転用 5件

◆◆◆ 議会のうごき ◆◆◆

8 月

- 2日 森林・林業・林産業活性化推進議員連盟連絡会総会 (札幌市、産建委員長)
- 6日 滋賀県湖南市商工関係者来町歓迎交流会 (町内、議長・副議長)
- 13日 戦没者追悼法要 (比布霊園、議長)
- 18日 上川中央部市・町議会議長会定例会議 (上川町、議長)
- 19日 家畜慰霊祭 (中央ふれあい広場、議長)
- 22日 全道議会広報研修会 (札幌市、委員)
- 25日 道北地方森林・林業・林産業活性化推進議員連盟連絡会総会 (旭川市、産建委員長)
- 30日 宗谷本線活性化推進フォーラム (名寄市、副議長・各委員長)
- 31日 総務常任委員会 (役場、委員・議長)

9 月

- 5日 産業建設常任委員会 (役場、委員・議長)
- 7日 議会運営委員会 (役場、委員・議長)
JAライスファクトリー竣工式 (町内、議長・副議長・産建委員)
- 8日 戦没者追悼式 (改善センター、各議員)
- 11日 ささき隆博ふるさとの集い (旭川市、議長)
- 12~14日 第3回議会定例会 (役場、全議員)
平成28年度決算特別委員会 (役場、全委員)

10 月

- 5~6日 上川管内町村議会議長研修会 (中川町、議長)

- 10~13日 総務・産業建設常任委員会合同行政視察調査 (滋賀県・香川県、全委員・議長)
- 13日 置戸町議会総務常任委員会行政視察来町 (役場、事務局)
- 24日 上川管内町村議会議員研修会 (鷹栖町、全議員)
- 25日 鹿追町議会総務文教常任委員会行政視察来町 (役場、議長)
議会運営委員会 (役場、委員・議長)
産業建設常任委員会 (役場、委員・議長)
第4回議会臨時会 (役場、全議員)

11 月

- 7日 上川中央部市・町議会正副議長研修会 (遊湯びっぶ、正副議長)
- 17日 議会広報特別委員会 (役場、委員)
- 20日 地方自治法施行70周年記念式典 (東京都、議長)
- 21~22日 第61回町村議会議長全国大会及び上川町村議会議長会臨時総会 (東京都、議長)
- 23~25日 上川管内町村議会議長現地研修会 (鹿児島県・熊本県、議長)
- 27日 総務常任委員会 (役場、委員・議長)
議会運営委員会 (役場、委員・議長)
第5回議会臨時会 (役場、全議員)
議会広報特別委員会 (役場、正副委員長)
- 28日 総務常任委員会 (役場、委員・議長)
- 30日 産業建設常任委員会 (役場、委員・議長)

◆ 編集後記 ◆

今号は道外視察、選挙などの日程が重なり、発行が1か月遅れましたことをおわびします。

感動する経営者の話を新聞で読むと、北海道経営未来塾の公開講座で、ドートルコーヒー名誉会長の鳥羽博道氏は、ブラジルコーヒー園の現場監督で働いていた経験から、権力で人を使わず、人間関係をしっかりと築いて気持ちよく働ける環境をつくる大切さを学んだという。

会社経営で優先すべきは、利益を出すことより、「出店した人が経営で失敗した時は、店を買って取るから」と、人を不幸にしないことだ。今の資本主義では、自分だけもうかればいいという思想が多い中で、このような経営者が成功したのだ。

「至誠通天」「因果俱時」の4字熟語は示唆に富む。なぜ感動したのか。今の時代、この会社の経営を町議会・行政・組織・団体と置き換えてみる。私は生き方とともに、町民との接し方、気持ちの持ちようやあり方などを学んだように思う。

(遠藤 ハル子)



補欠選挙により、新たに2人の議員が加わり、議会広報特別委員会の構成が変わりました。読みやすい紙面づくりに努めますので、よろしくお願ひします。
議会広報特別委員一同